

南関東ブロック会議（10月29日（金）・神奈川県：崎陽軒本店）

参加者は約90名。広瀬道神奈川県副会長の司会により、清水裕神奈川県会長が開会ならびに開催県を代表して歓迎の言葉を、岡本比呂志全専各連副会長・南関東ブロック長、福田益和全専各連会長がそれぞれ挨拶を述べた。続いて来賓の黒岩祐治神奈川県知事、山谷えり子参議院議員、赤池誠章内閣府副大臣・参議院議員から挨拶が述べられた後、来賓、行政関係者、全専各連、各都県協会等代表者の紹介が行われ本会議に入った。

はじめに、文部科学省報告として、岡貴子文科省専修学校教育振興室長から「専修学校をめぐる最近の動向」として、令和4年度専修学校関係予算概算要求、コロナウイルス感染症への対応、閣議決定文書（経済財政運営と改革の基本方針2021、成長戦略フォローアップ）、職業実践専門課程等を通じた専修学校の質の保証・向上（専修学校の質の保証・向上に関する調査研究協力者会議含む）等について説明が行われた。

続いて、全専各連事務局より、全専各連活動状況報告として、6月の全専各連定例総会・理事会で承認された事業計画の説明後、職業実践専門課程への助成拡充に関する働きかけ、国の会議（文科省協力者会議、学校法人ガバナンス改革会議）への対応状況について報告が行われた。

「各都県行政報告」についての説明（資料参照のみ）に続き、休憩後、分科会が開催された。第1分科会では「アフターコロナを見据えた職業教育の在り方」をテーマに岡本比呂志南関東ブロック長をコーディネーターとして、第2分科会では「チーム高等専修学校の普及推進」をテーマに、清水信一全国高等専修学校協会会長を司会・進行としてそれぞれ事例発表、文科省も交えた意見交換が行われた。

各分科会終了後、再び一同に会して分科会報告が行われた後、清水神奈川県会長より大会決議文が読み上げられ全会一致で承認された。最後に矢部明千葉県会長が次期主催協会挨拶を行い、太田裕多佳神奈川県副会長が閉会の言葉を述べて会議を閉会した。

なお、採択された大会決議文は次のとおりである。

全専各連南関東ブロック会議 大会決議

令和3年10月29日

全国専修学校各種学校総連合会

南関東ブロック会議（神奈川大会）

我々専修学校・各種学校は今般のコロナ禍においても、より高度な専門技術・技能の習得を目指す職業教育機関として、職業教育を粘り強く推進し発展させてきた。本ブロック会議では、ウイズコロナ、アフターコロナを見据え、今後もその社会的使命を果たしていくべきであることを確認した。

その上で、専修学校・各種学校が直面している諸課題の解決と中長期的な振興策に関す

る以下の項目について、国・地方公共団体に対してその実施を強く求めるものである。

記

1. 新型コロナ対策の支援

- ・学生、教職員の命と健康を守るため、感染対策・ワクチン接種等を含む各種支援を拡充させる

2. 遠隔授業等への対応支援

- ・遠隔授業、オンライン授業、あるいは対面も含めた「ハイブリッド型授業」の実施に伴う経済的支援及び実施に伴う柔軟な運用を支援する

3. 職業実践専門課程への抜本的振興策の推進

- ・企業との連携により実践的な職業人材を育成している職業実践専門課程に対し、都道府県による振興助成が十分に行われるために、交付税の活用を含む国からの財政的支援を実現させる

4. 留学生の早期入国と日本語学校・各種学校の経営支援、高度外国人材の就職支援

- ・日本は現在先進7か国（G7）で唯一、私費外国人留学生の入国を認めていない国である。必要な感染対策は講じながら、可及的速やかに留学生の受け入れを再開する
- ・ここ1，2年留学生が入国・入学ができない専門学校日本語科及び各種学校の日本語教育機関は経営的危機に瀕しており、必要な経営支援を緊急に講じる

5. 社会人の受入れ支援

- ・求職者向けに実施される委託訓練である「長期高度人材育成コース」等、社会人の「学び直し」を一層促進するための予算の拡充及び適正な定員配分を行う

6. 学校法人のガバナンスの在り方

- ・私立学校を設置する学校法人制度は、公益的性格をもつ法人としてとくに教育に特化した学校経営の制度であり、そのガバナンスは重要である。
- ・しかし、学校法人制度全体の特質や歴史についての考察を十分に踏まえることがない拙速な「制度改革」は問題がある。当該学校法人の理事長をはじめ学校経営と教育現場に責任を持つ関係者の声を先ずはよく聞いて、私立学校のもつ建学の精神や教育理念に基づく教育の特性を尊重した改革にすべきである。

以上